

令和6年度自己点検・自己評価調査結果

1. 自己点検・自己評価の目的

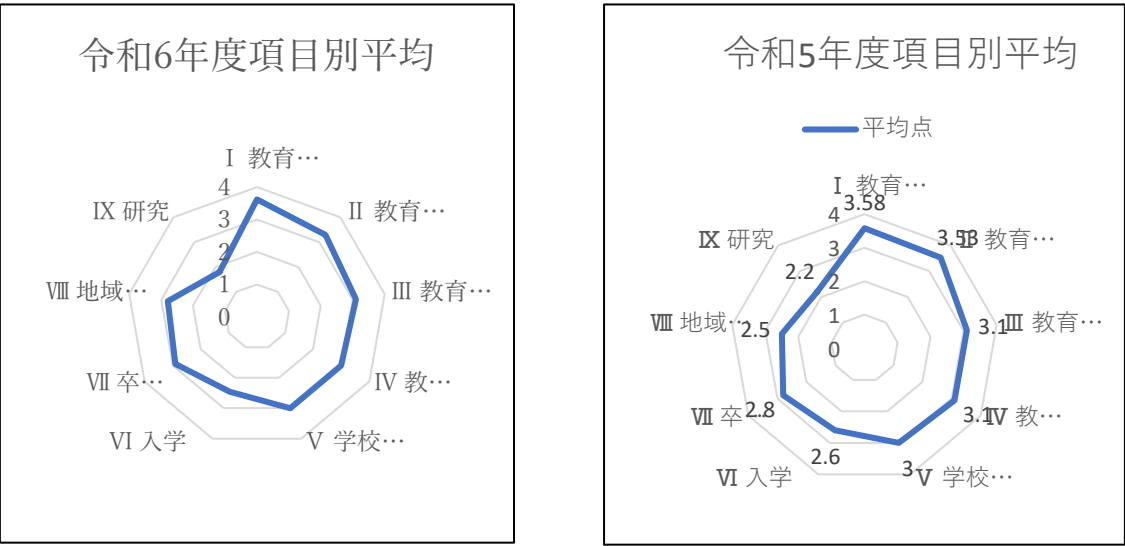
JA 北海道厚生連旭川厚生看護専門学校の教育理念に沿った教育水準の向上を図り、外部からの意見を聴取し、今後の学校運営に寄与することを目的とする。

2. 令和6年度自己点検・自己評価

1) 方法

厚労省の指針に基づいて、令和6年度（2024年度）2月に本校教職員28名を対象に自己点検・自己評価を実施しました。評価は4段階評価とし「当てはまる」を4、「やや当てはまる」を3、「あまり当てはまらない」を2、「当てはまらない」を1として得点化しました。

2) 結果



2024 年度	カテゴリー	項目数	平均点（前年度）
I	教育理念・目的	5	3.62（3.58）
II	教育目標	3	3.29（3.53）
III	教育課程・教育活動	18	3.1（3.1）
IV	教授・学習・評価課程	11	3.0（3.1）
V	学校運営	18	3（3）
VI	入学	2	2.46（2.6）
VII	卒業・就職・進学	4	2.9（2.8）

VIII	地域社会・国際交流	5	2.79 (2.5)
IX	研究	1	1.8 (2.2)

令和6年度の全体平均点は、2.92点(2.93)点であった。平均点より低値であったカテゴリーは3つあり、平均点が3点未満のカテゴリーは4つであった。

令和6年度の重点課題として以下の4点を挙げていた

(1) 教員の質の向上と教育力の向上

教員間の連携を図り、学校の業務、講義、演習など授業評価等を活用し互いに学び合う

(2) 健全な学校運営の実施

自己点検・自己評価・学校関係者評価の充実

積極的な学生募集活動の実施、市内高校への授業

教務内の情報共有と連携

業務の効率化の推進

(3) 厚生連地域医療に貢献できる人材の育成

卒業生の動向調査の実施し教育課程の評価の実施

学習支援活動の充実

(1)(2)について、カテゴリーⅢ「教育課程 教育活動」で平均点より低かった項目は2項目(7項目)あり、Ⅲ-12「教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。」の項目が前年同様低かった。これについては、各教員の授業時間、実習担当等についてキャリア年次や役割を鑑みて分担をしていること授業準備については、可能な限り学内で時間が確保できるように配分しているが臨地実習への同行や各委員会活動などで時間の確保が困難になっているのが現状である。しかし、教員の質の向上と教育力の向上にむけての取組は必要であり委員会活動などの見直しを行い改善を図りたい。

カテゴリーⅣ「教授・学習・評価課程」については、1項目(前年2項目)が平均以下となりⅣ-7「学習への動機づけと支援のためにシラバスと便覧を活用し、教員間で共有し養成所全体で協力し行っている。」(2.8点)

・シラバス(授業科目の履修目的・概要)については、年に1回見直し内容の整合性等を検討、授業評価委員会の活動が定着し、講義・演習・実習評価が少しずつ質の向上につながっている。また、今年度で新カリキュラムが3年経過となりカリキュラム評価委員会で具体的にカリキュラム全体を見直すための準備を整えることができた。次年度は具体的見直しに着手することが課題である。

V学校運営において、V-5「決定事項は、組織構成員の意思が反映されるよう、説明周知されている。」(2.8点) V-12「関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることに繋げている。」(2.9点)が前年より上向き値であるが、学校運営会議などの内容の周知共有がまだ不足な点があり、教職員会議等で報告伝達の改善を行いたいと考える。

(3) について、前年度課題でもあった卒業生の動向調査については、436 名の旧カリキュラム卒業生対象に調査を実施し 205 名の回答があった。卒業後も 86.8%が看護職として厚生連で就業している。看護教育を通して身についたと思う項目 9 項目については、身についた」「どちらかと言えば身についた」が 62%～82.4%という回答で、キャリアを積み上げていくことで更に自身のキャリアのステップアップとなり、厚生連地域医療に貢献できる人材の育成につながっている。

学習支援活動については、入学後から年度はじめに各学年が面談を行い学修状況を把握、試験の成績の傾向により個別に支援している。3 年生の国試への取組として、成績が伸び悩む学生について直接保護者へも連絡し支援してきた。また、eラーニングプログラムをトライアル導入し、各学年・領域から問題の配信を行い、学生個々の取組状況を把握し、学生へ個別強化に役立てた。しかし、活用できていない学生の効果は見えていない。

地域貢献や広報については、Ⅷ-1「地域のニーズを把握し、地域社会への貢献を組織的に行っている。」(2.85 点↑)、Ⅷ-2「養成所の教育活動について地域社会のニーズを把握し発信している。」(2.77 点↑)Ⅷ-5「国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。」(2.1 点→)

単発でのイベントへの参加の機会があり依頼によりボランティア活動を行った学生が数名いた。

また、広報活動については、令和 6 年 10 月よりInstagramを開設し学校行事や学生の様子など発信している。

国際交流については、国際看護の科目があり、海外協力隊での活動経験のある卒業生の授業を組み入れている。また医療英語として今年度より科目立てしている。海外と交流が行えるシステム作りはないがコミュニティデザインの科目のフィールドワークなどで異文化交流が行える機会もあり、地域密着を考慮した学習環境はある。さらに国際交流の場を広げられると今後の看護に役に立つものと考ええる。

学校関係者(厚生連実習先看護部長、1 単位以上の授業を持つ非常勤講師 5 名)からの自己点検・自己評価の結果についてご意見をいただいた。

・Ⅲ教育課程・教育活動Ⅳ教授・学習・評価課程において、「DP と CP の対応関係の明示があるとよりわかりやすい。」

「外部講師に対しても授業内容、方法の妥当性についてフィードバックいただけますと改善できる点もあるかと思います。」今後も外部講師と授業内容の打合せや評価のフィードバックを密に行うことで授業の質の向上につながると考える。

・Ⅵ入学、Ⅶ卒業・就職・進学について、「高校訪問では、学生の様子その他、学校生活や学校行事、教育支援や国家試験対策、旭川の実生活環境を聞かれるが応えられない。高校進路担当からも、看護学校の教員が来ないのはなぜか?と問われる。学生募集にあたり、学校として出向いて欲しい。」

・「全体を通し、自己評価 2 以下を選択している一定数の教員は、組織体制やコミュニケーション、教員間連携等に何らかの意見を持っていると思われる。このような教員が

学生への教育・指導または学校の風土、イメージに影響していないだろうか？互いに意見を表現する環境を作り、組織運営に活かしてはどうか。学業習熟の状態や実習態度学生生活の様子など情報が不足。」などのご意見をいただいた。

今回の結果と、ご意見を参考に次年度の重点課題下記のとおりとし改善に努めたい。

3) 令和7年度重点課題

(1) 教員の質の向上と教育力の向上

教員間の連携を図り、学校の業務、講義、演習など授業評価等を活用し互いに学ぶ合う

(2) 健全な学校運営の実施

自己点検・自己評価・学校関係者評価の充実

積極的な学生募集活動の実施、市内高校への授業

教務内の情報共有と連携

業務の効率化の推進

(3) 厚生連地域医療に貢献できる人材の育成

卒業生の動向調査の実施し教育課程の評価の実施

学習支援活動の充実